

株式会社 Lily MedTech

取材：2022年5月

多くの人々への加護を願う会社を
知財が護りながら活動を照らし出す

東京大学医学系研究科・工学系研究科での医用超音波技術を基にベンチャー企業として乳房用リング型超音波画像診断装置「COCOLY（ココリー）」を開発。仕事・恋愛・結婚・出産・育児と選択肢の多い世代の女性に対して、その選択肢が奪われないよう優しい乳がん検査の実現に向け、普及に力を注いでいる。革新的な技術で世の中を動かすことを目指している企業である。

主な権利

2020年：米国特許 第10856852号
2021年：特許 第6930668号
2021年：特許 第6940211号
2019年：意匠登録 第1623410号
2020年：商標登録 第6255617号

会社概要

所在地：東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学アントレプレナープラザ 701
電話：03-6240-0940
URL：https://www.lilymedtech.com
業種：医療機器開発など
設立：2016年（平成28年）
資本金：20億9,303万円（資本準備金含む）



代表取締役 CEO：東志保さん（右）
知財部 部長：ガニング 麗奈さん（左）

辛さや苦しみの経験を
してほしくないという想い

知財部のガニング部長は、大学で理学を学んだ後に特許事務所に就職し、その後は半導体を研究開発する会社で知財業務を担当した。株式会社 Lily MedTech（リリーメドテック）に入社したのは2017年。「モノづくりを行い、その知財を使う。そんな姿勢があって、これから知財部を立ち上げるような会社で働きたいと思い、会社の目的や経営陣の考え方に共鳴して入社しました」

株式会社 Lily MedTech が設立されたのは、その前年の2016年。東CEOが高校生の頃に、母親をがんで亡くしたことがきっかけで起業したという。「乳がんは早期発見できれば死亡率を低減させ、治療期間を短くすることができます。母親は乳がんではありませんでしたが、闘病の姿を見て、さらに母親不在の家族という現実直面して、同じような経験を他の方々にしてほしくないという気持ちで起業しました」

知財は活動の「見える化」の
手段として大切なもの

同社が開発したのは、乳がん用の画像診断装置「COCOLY」。東京大学による「リングエコー撮像法」を基にした画期的な製品である。一般的なマンモグラフィで課題となっている放射線被ばくのリスクや痛みをなくし、女性に優しい乳がん検査を後押しするものだ。

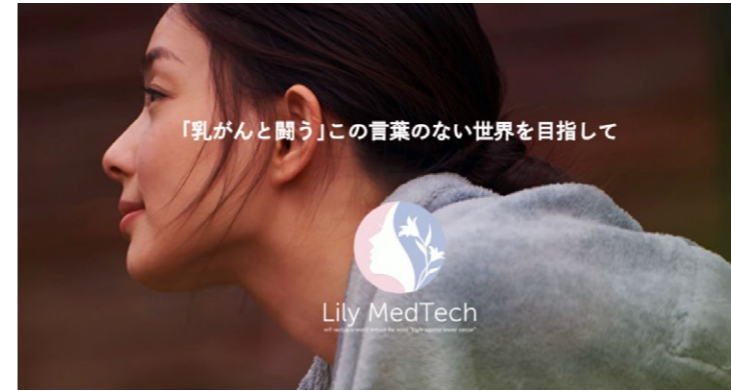
そんな同社の知財について、改めてガニング部長に尋ねた。「知財は、社内の開発活動と事業活動の『見える化』の手段の一つだと思います。開発過程で生まれたけれど製品に搭載されずに、埋もれてしまう皆さんの技術や努力があるでしょう。それを掘り起こして評価する基軸になれるのも、知財だと思います。権利行使のための知財権とは別の側面でも、事業に携わることができる。そして見える化した知的資産は、事業戦略に昇華する可能性も残せるんです。それを社内の活性化にもつなげられれば、知財が果たす役割は大きいと思います。会社の事業活

動の証として、目に見えるものを残す手段の一つになると考えています」

カバーする範囲が広い知財に
外部の知識やパワーを活かす

知財センターのことは、知財関係の助成金について調べる過程で知ったという。「海外も含めて一つの特許を権利化し維持するにはお金がかかります。しかし、リソースは限られていますから、効率よく知財のポートフォリオを作ることが重要になります。そして、知財部だけではお金を生み出せないと思っていたのですが、助成金という資金調達の方法があると気がきました。自力でリソースをある程度確保できれば、それだけやれることの自由度も増します」そんなガニング部長の言葉に「単独で生存できるセクションにしようかと奮闘しているのは、すごいなというか、たくましいと思います」と語る東CEOの笑顔が印象的だった。

しっかり知財部として自立しようと考えているガニング部長に、ヒト・モノ・



Lily MedTechのミッションは、「乳がんと闘う」この言葉のない世界を目指して。社会に貢献したいという強い想いが、多くの共感を生み出している。



乳房用リング型超音波画像診断装置「COCOLY」。検診を受ける女性はベッド型の診断装置にうつ伏せになり、ベッドの穴に乳房を片方ずつ入れるだけ。乳房を挟まれる痛みも、誰かに触られることもなく、超音波なので放射線被ばくもない。



「COCOLY」は日本乳癌検診学会などのイベントにも出展され、女性に優しいこれらの技術として、多くの注目を集めている。

カネの、ヒトの部分についても尋ねた。「外部の専門家の方も積極的に使わせてもらっています。小さい組織では一人がカバーする業務範囲が広いので、自分の経験が及ばない分野もあります。そこで、外から入れられる知識やマンパワーがあれば、どんどん利用するスタンスを取っています。ただし、いただくアドバイスはあくまでもセカンドオピニオンとして精査できることが必要となるでしょう」

開けっ広げに聞けるのが
知財センターのアドバイザー

知財センターも外部機関として積極的に活用し、「COCOLY」においては特許、意匠、商標、さらには契約関係に至るまでアドバイザーからの助言を受け、出願計画の策定・実行を行い、知財権を取得した。3年間のニッチトップ育成支援も受けたことについて、ガニング部長はこう語った。「とりわけ経験不足の分野は手探りの部分もありました。知財センターは中小企業向けに当社の環境にも合ってい

ましたし、アドバイザーからは『この会社規模の、この事業フェーズなら、こうでしょう』と、大手企業との比較も含めて助言してもらえます。巷に溢れている知財関係の本を読んでも、何千件も特許を持っている会社と、1〜2件持っている会社では当然大きな違いがあります。そんなギャップを埋める上でも、アドバイザーには助けてもらいました。『本当のところはどうなんですか？』と何でも開けっ広げに聞けるところもいいと思います」

権利を顕在化しておくことが
会社の健全な成長につながる

東CEOに、知財に対する考え方を改めて尋ねた。「知財が事業の中で重要であるとはずっと考えていました。そして、ス

タートアップ経営の立場からすると、それを事業化するというよりも、金融まわりでの価値が大きいのと感じます。権利を顕在化しておくことは、熾烈な競争の中で会社を守り、健全な経営を行うためには大切な観点です」さらにこう続けた。「知財部は会社の開発部門に伴走してくれています。技術者のミーティングにも自ら積極的に参加して、異なる目線からポイントを拾い上げてくれるのはありがたいです。今後は会社の成長とともに、知財を交渉や換金化などのカードとして使えるといいですね」

多くの人々に加護あれと、未来の幸せを願う会社の明日は、知財によって守られている部分もある。そして、そんな知財の役割も、同社の成長に寄り添いながら変化を続けていくのだろう。

知財
センター
から

知財交流・研究会への参加で経営者の視点も学んだ

知財担当者として知財交流・研究会に参加し、他の中小企業の知財担当者や経営者と議論したり情報共有を行ったことも大きな力になったようです。知財センターが提供するプラットフォームを積極活用し、さまざまな体験を得て多くの視点を獲得しながらステップアップできたことは、今後の知財活動の礎にもなると思います。担当：渋谷アドバイザー